

令和元年度 第1回岡山市子ども・子育て会議 (議事録/要約)

日時：令和元年6月3日(月) 午前9時30分～午前10時45分

場所：岡山市勤労者福祉センター5階体育集会室

開会

- ・局長・部長挨拶
- ・会長挨拶
- ・新任委員挨拶
- ・成立確認・・・委員20名中18名出席にて過半数を充足し、成立を確認。

議事

議事進行は会長

(1) 岡山市子ども・子育て支援に関するアンケート調査の結果について

[事務局から資料に沿って説明]

委員 こどものいない地域の方の意見は入っているのか。

事務局 このアンケート調査については、こどものいる世帯のみを対象にしている。

委員 早目に子どもを預けて就労したい理由として、早く就労したいというよりも、早く子どもを預けないと預かってもらえないと思われる保護者が結構おられるのではないかと。岡山市としては、保護者のニーズをどのように解釈しているのか。

事務局 早目に預けておかないといざ預けたいタイミングで預けにくいと考え、早めに預けるという、負のスパイラルになりつつあるということは考えている。低年齢児の受入に関しては、地域型小規模保育事業者ということで、低年齢児の保育の受け皿確保のために事業者の募集などを進めている。少しでも早く待機児童の解消につながるよう事業者の募集やマッチング作業を行うなど、いろいろと取り組みをしている。

委員 岡山市は子育てがしやすいまちかという質問に対して、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」など否定的なものについては、原因が調査されているが、多くの方が選んだ「どちらかといえばそう思う」については、原因が調査

されていない。岡山市のよいところ、利点はどこなのか内訳を出してもらおうと良かったと思う。

委員 放課後児童クラブについては、低学年と高学年ではニーズに差があるのでひとまとめに集計したのでは、ニーズの高い1年から3年までの本音が明確にはあらわれないのではないかと。

委員 高学年の子どもたちも充実して過ごせるような放課後児童クラブのあり方を追求してほしい。

12ページの育児休業を利用しなかった理由で、「家事に専念するために退職した」が36.4%ある。すぐにでも仕事に復帰したいとか、仕事を続けたいという保護者がたくさんいる中で、退職したというのは保護者の本意であるかどうか。さらに次の「育児休業を取りにくい雰囲気があった」が18.9%、そして「制度がなかった」というのが17.5%。本来なら育児休暇をとりたかったけれども、とれなかったのではないかとこの内容がここにある。育休をとって休みながら、また復帰できるという、小さい子どもを育てる保護者への支援はとても大事だと思う。もう一つは、13ページの中で「子育てや日常生活のことを話し合える人がいる」がこの約3年間で非常に減少しているということ。子育て環境の支援は、学校・保育園などという福祉施設だけの問題ではなく、地域の問題が非常に大きい。行政もいろいろな子育ての支援をしているが、それが本当に有効に生かされているのかどうか、情報を得る必要がある。

委員 連合町内会長さんが子どもに行事の案内をしてあげるために、学校へ子どもの情報を問い合わせても、個人情報保護法のことであって教えてもらえないという話を聞いた。地域の方は熱意を持たれているのに、子どものために何かしようと思っても法律がネックになって、十分な案内ができない。

委員 地域と結びつけができるのは、学校・幼稚園・保育園しかないと思う。学校の役割の中に地域に関係づくような仕組みを行政に考えてもらいたい。

委員 地域の方々も高齢化が進んでいる。学校・園の中で地域と子どもをつなぐ、40～60代を岡山市としてどのように育てていくも課題。

委員 放課後児童クラブについても、保育料のように2人目は半額などという、所得に応じてとかでもあれば、利用する方が増えて、子どもたちも健康で安全な放課後の過ごし方ができるのではないかと。

会長 他にあるか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

閉会